<table>
<tr><td colspan="3">企　画　経　済　委　員　会　　委　員　協　議　会　　記　　録</td></tr>
<tr><td>１ 会議の日時</td><td colspan="2">令和７年８月２２日
開　会　　午前　　１０時００分
閉　会　　午前　　１１時１６分</td></tr>
<tr><td>２ 会議の場所</td><td colspan="2">第２委員会室</td></tr>
<tr><td rowspan="2">３ 出　席　者</td><td>委員</td><td>委員長　所　　竜　也　　副委員長　小　川　祐　輝
平　岩　正　光　　松　岡　正　人　　酒　向　　薫
伊　藤　英　生
（欠席：岩　井　豊太郎）</td></tr>
<tr><td>執行部</td><td>別紙配席図のとおり</td></tr>
<tr><td>４ 事務局職員</td><td colspan="2">課長補佐　水野　智裕　　主任　辻川　未紗</td></tr>
</table>

５ 会議に付した案件	
件　　名	審 査 の 結 果
１　観光交流産業の振興について ・飛騨高山の持続可能な観光地づくり 【参考人】(一社)飛騨・高山観光コンベンション協会 会長　　堀　泰則　氏 ２　その他	

６ 議 事 録　（要点筆記）

○所竜也委員長

それでは、ただいまから企画経済委員会委員協議会を開会する。

本日の協議会は、委員会の所管事項の調査や施策の評価の充実を図るために開催したものである。

議題は、お手元に配付した次第のとおりである。

執行部については、今回の議題を所管する所属を中心に出席いただいている。

本日の委員協議会は、(一社)飛騨・高山観光コンベンション協会の堀会長から、直接お話をお聞かせいただき、岐阜県の観光を考える機会とすることを主な目的として、開催するものである。

まず、はじめに、議題１「観光交流産業の振興について」とし、参考人として、(一社)飛騨・高山観光コンベンション協会　会長　堀　泰則　様に出席いただいている。

それでは、堀様から報告をお願いする。

（参考人説明：(一社)飛騨・高山観光コンベンション協会　会長　堀　泰則　氏）

○所竜也委員長

ただいまの説明に対して、質疑はないか。

○伊藤英生委員

観光誘客数だけを追い続ける施策では事業者がついていけないと説明があったが、この点について、今後の方向性はどのように考えているか。

○堀参考人

地域ＧＤＰの向上と、オーバーツーリズム対策のため、地域の特性に合わせた高付加価値な地域づくりを目指し、観光収入を増加しつつ地域住民との共存を重視する施策に転換することを考えている。

○伊藤英生委員

コロナ禍を経て欧米圏からのインバウンドが増加したことによる対応の変化は。

○堀参考人

従来のアジアからの観光客は夕食付きの宿泊形態が多かったが、欧米からの観光客は「ルームオンリー」や「Ｂ＆Ｂ（朝食付き）」を選択することが多く、ホテル外での夕食需要が増加している。ホテル客室数は増加しているが、飲食店数は増えておらず、ミスマッチが生じていることが現在の大きな課題である。

○伊藤英生委員

県内周遊を促進していくため、どのように取り組んでいくべきか。

○堀参考人

今後は、桜街道のように「春の３月下旬から５月まで県内を周遊できる桜のルート」といった、テーマごとに県内をアピールする施策が効果的であると考える。

高山では、地域振興策としてマスコットキャラクターの活用により、Ｚ世代など若い世代の知名度向上を図っている。加えて、白川村や飛騨市とも連携し飛騨エリア一体で取り組んでおり、こういった取組により県内周遊につながるのではないか。

○酒向薫委員

高山市内では、ホテル等の宿泊施設に外資系企業が進出している状況がある中で、他県で問題になっているような中国資本によるトラブルの懸念はあるか。

○堀参考人

高山市に進出しているホテルに中国系企業はないが、民泊やゲストハウスの中には、実質的に中国人オーナーが運営しているものはいくつか確認されている。ニセコや白馬のような中国資本による土地の買収は、高山ではまだ顕著には行われていないが、注視している。

○酒向薫委員

若者の観光業離れや後継者不足がある中で、高山に観光に特化した学校を作り、Ｚ世代のような若い人材を育成・誘致する構想はあるか。

○堀参考人

市内の高校と観光学科の設置について協議したが、カリキュラムや専門教員の確保が難しく、実現に至っていない。経営学の一部として観光を取り上げることはできるが、専門学科は難しい。

また、海外からのお客を念頭に、日本語学校を設置したいと考えているが、教務主任を確保することができないため、設置のめどはたっていない。

○酒向薫委員

地元の若者にとって観光業は魅力的だと思うが、飛騨地域全体として、Ｕターンは多くないのか。

○堀参考人

残念ながらＵターン・Ｉターンは少ない。小中高で郷土愛教育を進め、約８割の生徒が郷土愛を持っているという結果は出ているが、それがＵターン・Ｉターンにつながっていないのが現状である。

○松岡正人委員

外資系や他県資本の宿泊施設における税収や人材確保はどうなっているか。

○堀参考人

基本的に、地元には固定資産税が入る。

また、人材不足は大きな課題であり、新規進出企業には従業員を自社で確保してくるよう要請しているが、なかなか実現しない。

○松岡正人委員

意見として述べるが、オーバーツーリズムなどによる住民のストレスを軽減するため、宿泊税を増額し、公共サービスや安全対策に充ててはどうか。また、宿泊客の消費額の増加やホテルの価格高騰がある中で、より宿泊客に地元で観光消費してもらう仕組みを作ってもらいたい。

もう一点、民間の調査によると、国内の認知度が低いように思うが、国内からの観光客を増やす戦略について、どのように考えているか。

○堀参考人

人口減少という厳しい現実がある中で、滞在期間を延長していただくため、地域全体の魅力向上、若年層へのアプローチ、広域連携による多様なプロモーションが不可欠であると考えている。

また、コロナ禍を経て、団体旅行が減少しており、今後はＭＩＣＥ事業等を進めていきたい。

○所竜也委員長

質疑も尽きたようなので、これをもって質疑を終了する。

そのほか、何か意見等はないか。また、執行部はいかがか。

意見もないようなので、これをもって、本日の委員協議会を閉会する。

企画経済委員会 委員協議会　配席図

令和7年8月22日

第2委員会室

出入口

傍聴席・記者席

傍聴席・記者席

横田観光文化スポーツ政策課サステイナブル・ツーリズム推進室長

堀観光資源活用課関ケ原古戦場活用推進室長

細川観光資源活用課長

土田産業人材課長

加藤観光誘客推進課長

矢野観光誘客推進課観光誘客企画監

兼松未来創成局長

山下観光文化スポーツ部次長（観光国際担当）

青木観光文化スポーツ部次長

渡辺観光文化スポーツ部長

出入口

議会事務局

議会事務局

伊藤(英)委員

松岡委員

岩井委員

所委員長

参考人

モニター

酒向委員

平岩委員

小川副委員長